

身体が不自由な方への

心配りはできていますか？

市では、犬のふん問題やごみの不法投棄などが多いことから、環境に関する条例を制定し、来年四月から施行します。一人ひとりが気を付けなければならないのに、それを法で取り締まらなければならぬのは非常に残念なことです。そして、私たちの生活に目を向けてみますと、ほかにもモラルに関する問題がたくさんあります。今回は、その中で、身体が不自由な方への心配りについて取り上げます。

市の一部の施設や大型スーパーなどに車いすのマークのついた駐車場がありますが、これは、車イスを利用する方への専用の駐車スペースです。ドアをいっばいに開けて、車いすでの乗り降りがしやすいように、駐車するスペースが広くとられています。この駐車スペースに、駐車場が混み合っているときや急いでいるときについて、「自分だけなら」「ほかの人も駐車しているから」と軽い気持ちで駐車されていることがあります。なかには、全く気づかずに駐車されている場合もあります。しかし、たとえ悪意がなかったとしても、このことは、身体が不自由な方にとっては、生活していくうえで非常に大きな問題です。



市の一部の施設や大型スーパーなどに車いすのマークのついた駐車場がありますが、これは、車イスを利用する方への専用の駐車スペースです。ドアをいっばいに開けて、車いすでの乗り降りがしやすいように、駐車するスペースが広くとられています。この駐車スペースに、駐車場が混み合っているときや急いでいるときについて、「自分だけなら」「ほかの人も駐車しているから」と軽い気持ちで駐車されていることがあります。なかには、全く気づかずに駐車されている場合もあります。しかし、たとえ悪意がなかったとしても、このことは、身体が不自由な方にとっては、生活していくうえで非常に大きな問題です。

市長リポート

No. 168



空港開港

その後

圏域住民が待ち望んだあきた北空港が開港し、二か月半が過ぎようとしています。驚きましたのは、今でも休日を中心に、たくさんの方が空港の見学に訪れていることです。空港開港からの見学者数を見てみても、その勢いは全く衰えることはありません。このことから、皆さんの空港に対する関心の大きさを感じているところです。私は、十八市町村からなる利用促進協議会の会長と空港ターミナルビルの社長も務めています。責務からも、この好調なスタートにはほっとしています。

ただ、空港の開港前から心配されていました乗降客数や全国での空港の知名度は、今まで何度かキャンペーン活動を展開しましたが、まだまだ不十分です。これからの活動に期待していただきたいです。各路線別の利用者数を見ますと、東京便は好調で、全便ほぼ満席に近い状況が続いています。大阪便と札幌便は心配な状況にありますが、これからの秋の観光シーズンに限っては、八〇パーセントを越える予約が入っています。

これから問題になりますのは、冬場の利活用についてです。冬期間は札幌便はお休みとなりますが、大阪便の利用客を確保しなければなりません。対策としましては、まず今ある資源の掘り出しをするともに、旅行会社などと協力して、新たに県北の魅力を発見できるようにツアーを企画したいと考えています。そして一方では、これからもどんどん関西地方に出かけることです。「冬の京都・奈良」などは、趣きがあつてなかなか良いものではないでしょうか。

今後の最大の目標は、東京便を一日二往復にすることです。それには、これまでのような利用実績を積み重ねていくことが重要になります。決して楽観視できませんが、圏域住民の協力を頼りによって、この目標を早いうちに達成させましょう。

小畑 元